



会長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 齊  
副会長 橋本 昭一 幹事 松本 剛典  
クラブ奉仕 橋本 昭一 会計 妻神 和憲  
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏  
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫  
社会奉仕 岡崎 孝文 副幹事 小田山紀暢  
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹  
同委員 妻神 和憲 同委員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ  
世界に希望を生み出そう 和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

## 3月は水と衛生月間です

第3304回例会 2024.2.28

### 会長要件 紺野 広 会長



今日市庁舎に行き、市の防災計画の中での病院の役割について話し合ってきました。洪水・津波ハザードマップの変更に伴い、八戸赤十字病院は3m、八戸市立市民病院は5m浸水すると想定されて居ります。地域内の災害拠点、2病院の防災対策は急務であります。私は、東日本大震災時、3.11の翌日に、石巻赤十字病院に赴きました。夜に到着致しましたが、市内で自家発電装置で灯りが点いていたのが石巻赤十字病院ただ一つで、避難者が殺到して居りました。勿論、重傷者も多数搬送されて居り、私達、八戸赤十字救護班も懸命に医療に当たりました。実際の震災の現場で医療を行って参りましたので、被災地内の病院が、きっちり機能を果たす事が人の命を救う為に、如何に大切かという事を身をもって経験して居ります。ですので、ハザードマップの変更に伴って浸水区域になった当院の強靱化の為に、内水氾濫対策に関しては創水舎栗谷川さん、自家発電に関してはユアテック今さんに

相談致しました。今度、自家発電装置に関しては、青森三菱の夏川戸さんの所にも相談に上ろうと思って居ります。市の方でもヘリポートの整備等色々考える処が有る様で、前向きに検討する事を御約束下さいました。県の宮下知事も避難所としての立体駐車場建設、其の屋上へのヘリポート設置等、自家発電装置の嵩上げに絡め案を出して呉れて居ります。能登半島地震が、県、市が災害を一緒に考える良い契機に成って居るといふ気が致します。今迄もクラブ内各企業で災害時に取り組んだ実例を御話し戴きましたが、今後も続け、災害に対する知見をクラブ内の皆で深めて行き、一緒に災害に備えて行ければと思います。又、病院強靱化に関しても、色々、御力添えを賜りたく御願ひ申し上げます。

ウクライナの子供達を支援して居る右近彩葉さんから、2月7日に卓話を頂戴した後、当クラブからの支援を申し入れましたが、右近さんの居る地区の子供たちは既にウクライナに戻り、其の地区での支援事業は難しいという事でした。しかし、支援を必要として居る先は世界中に、まだまだ有ります。今後も世界の支援、奉仕活動を知る内容のプログラ

ムを組んで、支援について考えて参りたいと思います。渡辺プログラム委員長に日本赤十字社のウクライナと、ガザ地区への人道支援に関して、卓話の日程の調整を御願ひ致しました。

## 幹事報告 松本 剛典 幹事



○先日の例会でお知らせしましたが、ホテル青森で3月30日に行われます中グループインターシティミーティングの締切は明日になっています。

まだ申込みされていない方は事務局までお願いいたします。

○2024-25年度ロータリー手帳をご希望の方は回覧に○印をつけてください。

## 委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員長

○ニコニコボックスの報告

- ・誕生祝 松林拓司さん
- ・奥様誕生祝 松本剛典さん
- ・結婚記念日 松本剛典さん

橋本八右衛門さん 次年度にむけ委員長をやっていただける方を募集しております。まだ空きがございますので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

宮下 悟さん 次男坊、婚約！ジイジになる日は近い？

夏川戸 齊・小井田和哉 } ニコニコデー  
上村奉樹・熊谷清一さん }

災害時の各企業の対応について

上村奉樹さん（デーリー東北新聞社）

3.11の時の話、その後と今をさせていただきます。ご存じのように3月11日14時46分に大きな地震がありました。当社でも編集局、営業局、総務局などいろいろある部署で取材したり、状況把握をした上で、社長以下各局の幹部会議がありました。死亡広告を含めた

広告をすべて外した上で、ページ数も減らして発行するという事に決めましたが、本日に発行できるのかなと誰もが感じていたといひます。

本社の隣接地に今でも印刷工場がありますが、その印刷工場もできたばかりで、新聞を印刷する輪転機も新設されたばかりでした。非常用発電機はあったのですが、本社の社屋だけにあるものだったので、停電が復旧しないと印刷ができないのは誰もが認識していました。

十勝沖地震、三陸はるか沖地震の時も輪転機は動かせたのですが、その時点で万が一の場合に備えて災害協定を結んでいる会社が岩手県一関の岩手日日新聞に念のため電話は入れていたと聞きました。

その間、編集記者たちは当然取材も始めなければいけないということで、当時、今の社長の広瀬が報道部長でしたので、陣頭指揮を執っていました。われわれ営業部員も広告が出ないので、広告主への事情説明に追われました。日本海側からのビル電話回線が生きていたために、共同通信社からの記事は受信できていたそうです。

今見ても胸が苦しくなるような写真です。当時、東北電力に何度問い合わせても、当たり前ですが、復旧の目途は立っていない、の繰り返しでした。自社印刷にこだわっていると翌日の新聞が発行できないという判断があり、岩手日日新聞社さんに印刷を依頼しました。全部で4ページ、モノクロで30,000部だけで了承を得ました。ちなみに当時の当社の部数は100,000部ちょっとありましたので、1/3以下になります。

刷ったものは一関に会社のある北上製紙という新聞用紙を納入している会社に配送してもらいました。当然停電で真っ暗闇の中を国道4号をひたすら北上して、デーリー東北に着いたのが朝6時過ぎだったそうです。当初、迎えた社員たちはひじょうに歓喜に沸いたそうです。部数が限られているので、安全を考慮して新井田川と馬淵川に挟まれた区域にだけ配達、さらには市内の避難所や学校、公民

館を回って配達しました。そして当時のうちの若手記者の手記が残っています。「新聞を見てことばを失う人もいたが、なぜか安心しているように見えた。いつも届いている新聞がこんな大災害のときでも手元に届く安心感。八戸は大丈夫だ。あの朝の新聞はそんなメッセージを読者に伝えていたと思う。」

停電は翌12日も続きました。再度、岩手日日新聞に印刷を要請していましたが、午後10半過ぎに約32時間ぶりに停電が復旧。何とか自社印刷に漕ぎつけました。全戸に全8ページしか刷れませんでした。

そういった教訓もあり、今では非常用発電設備も設置しましたし、給油がなくても1週間近くは印刷可能な燃料タンクも設置しています。災害協定先も岩手日日新聞以外にも青森市の東日オフセット、弘前市の読売新聞弘前工場とも結んでいます。避難施設や全戸配達アナログがゆえにできることであって、これからも情報をきちんと伝える使命をもち、取り組んで参りたいと思います。

紙面でご覧になった方もいると思いますが、能登半島への被災地義援金を1月11日から募っていて、現在数百万の温かいお気持ちをいただいています。日本赤十字社青森県支部を通じて被災地に送ることになっています。

震災3日後の3月14日付新聞から16ページに戻って、広告も復活しました。葬儀広告や月決め広告は掲載になっていて、保険会社のお見舞い広告、ユニバースの臨時休業のお知らせがありました。その中に某パチンコ屋の新台入替え広告が、しかも一番大きなスペースにあり、商魂逞しいと思いました。わたしはこういうことがあった時に東京支社に転勤中で、当時本社で起きていたことは全部後で聞きました。

ロータリーの友委員会 小田山紀暢委員長



1月号に八戸クラブが掲載されていたのでご紹介します。地区大会略報2830地区の写真が載っています。築館ガバナー、さかなくん、ロー

たくん、地区スローガンなども載っています。

昨年10月24日にEndポリオで、国際ポリオデーにちなんで、八戸ショッピングセンターラピアでローたくんと八戸中央クラブ、八戸西、八戸東高校インターアクトクラブの生徒が共同でティッシュを配ったり、寄付活動、PRをしました。大きい記事で掲載されています。

道尻さんの川柳が載っています。12月号と1月号に2号連続で掲載されています。12月号では三作品だけ選ばれる天地人に道尻さんの作品が選ばれています。

2月号の紹介をします。2月は**平和構築と紛争予防月間**です。このテーマにちなんで特集記事が多数組まれています。「平和は学び、知ることから」の導入部分を紹介します。「世界各地で争いが絶えない中、ロータリーで何ができるのでしょうか。日本にいながら紛争地で生きる人と接し、交流することで、手を差し伸べる会員がいます。被爆地である広島会の会員は未来を担う若者たちに平和を戦争について思いを巡らす機会を提供しています。平和とは何か。今私たちも改めて平和を学び、知ることから始めませんか。」

次のページから具体的にどういった活動をされているかが載っています。広島の竹田中学校・高等学校の高校生のインターアクターのこどもたちとパレスチナ自治区の中のガザ地区、まさに最近テレビニュースで取り上げられていますが、そちらのガザの若者たちが交流を図っている。元々オンラインで子どもたち同士で交流していたが、その中で実際に3名がガザから広島の高校を訪れている。

実際に日本に来て柔道をやってみたり、ワークショップをやったり、実際のガザ地区の生活の現状などを伝えたり。実際のイベントの1つで“ガザの声を聞く”、その中で現地の若者の話をお話します。「日々命の危機にさらされていること、親しい人々の死、電気が1日6時間しか使えないこと、ガザ地区から自由に外出できないこと、特にわたしたちが望んでいることは皆さんが当たり前と思っている人権を与えられることです。」

日本では当たり前のことだと思いますが、それすらもままならない状況。ちょうどこの交流の翌日にパレスチナを実効支配している Hamas がイスラエルに攻撃を仕掛ける形でパレスチナとイスラエルの大規模な紛争が勃発しました。実際に来られた3名の方たちは隣国に避難していて無事だったそうですが、身近でそういうことがある。実際に世界のどこかでそういうことが起っているというのを高校生、若いうちに知るのはいへんいいことだと思います。

オンライン交流で、子どもたち同士で将来の夢の話になったそうです。ガザの子どもたちは医者になって地域の人々を助けたい。学校の先生になって子供の学力を高めたい。エンジニアになりたいなど明確な夢を語る。対して日本の子どもたちは自分たちは何でもできるのにやりたいことがわからない。ガザの子たちは夢があってすごい。日本に住んでいるとなかなか食事のままならない、命の危険にさらされることもないと思いますが、そういった紛争の地区の子どもたちと交流することで、そういうこともある。自分たちがいかにかに恵まれているかというような気持ちを持ついい機会になるのかと思います。

アフガニスタンの難民の受け入れをしている大学があるそうです。宮崎のロータリークラブだそうです。実際に行くわけではないそうですが、母国の将来を担う若者への教育の支援として、協力を受けて数多くのアフガニスタン人を日本に留学生として招いている。アフガニスタンも前政権が崩壊した後に反政府勢力が政権を握り、それまで民主主義教育を受けていた方たちが窮地に追い込まれ、難民がかなり増えている。

日本はウクライナ避難民への対応は行っているものの、他の国の扱いは流動的です。アフガニスタンから逃れてきた人たちが日本に住める期間は1年間。受け入れ先での具体的なサポートは民間団体やNGOが受け持ちますが、入国から1年間で日本語を習得して就職先が見つからなければ、またアフガニスタンに返されてしまうという状況だそうです。

このロータリークラブの活動は直接的な食糧配布の支援もしているが、それ以外にアフガニスタンの子どもたちの発表の場を作ってあげるコロキウム、主に啓発活動を行っています。

若い世代の方たちに同じ世代でこういう子どもがいるんだということを知ってもらおう活動をしているそうです。平和と紛争予防、平和フェローの特集記事がたくさん載っています。

### 縦組み

新潟燕ロータリークラブの青柳さんは元々地元商店街で家業を継がれている生活雑貨、福祉用品の企画開発をしています。燕市のひとり親世帯や生活保護世帯の子どもを支援する非営利活動法人をやりながら、燕ベースという建物を自身で買い取って、そこにひとり親世帯の子どもたちが来て遊べるような場になっている。そこで子ども食堂を創ったりなどの事業をしている。平和とはテーマが違いかもかもしれませんが、この方もこういった取り組みを通して、困窮している方たちの役に立っています。

道尻さんは3号連続で今月も川柳が載っていますので、ご覧ください。

ぜひロータリーの友をご一読ください。

### 3分間スピーチ

夏川戸 斉さん



先週災害についての話をしましたが、間違いがありました。

エレベーターの中に電話機が付いているという話をしましたが、今は電話機ではなくSOSボタンだそうです。それを押すと外部に繋がるということになっています。

きょうはわたしが入っている八戸三菱会について皆さんにご紹介したいと思います。八戸三菱会は三菱グループの出先、あるいは代理店、工場などで構成されていて、今現在24社あります。各県には三菱会という名前ではなく“菱友会”という名前で存在しています。青森市は菱友会という名前でねぶたも出して

いて、最優秀賞を4年連続で取っています。

その出先の八戸は“八戸三菱会”ということで、年間9回例会をしています。その中で講師を呼んでお話を聞いたり、情報交換をしたりしていますが、年1回は奉仕活動しようということで、一番最初に行ったのは三社大祭の後に皆さんが場所を取るためにガムテープを貼っていましたが、それが取れないというので三菱会で取る活動をしようということで始めました。当初はガムテープがなかなか剥がれなくて、いろいろ苦労しました。その中でコロナ禍になってお祭りが中止になり、新聞等々でも情報が行き渡って、ガムテープを貼るところが少なくなりましたので、やってもしようがないと感じていました。

以前、市長と一緒にお見えになった方で、八戸市危機管理部長の佐々木さんが保健部長の時に三菱会に来ていただいて講話をしていただきました。その際に新菱（MRCニューテック、日東化学）で除菌スプレーを作っていますので、コロナ禍ではそれを寄付することをしていました。今年度はロータリーでも関わり合いのある母子支援センターにクリスマスイブに入所者分のクリスマスケーキを届けました。これは毎年やっていこうかと考えています。

わたしは会長もしています。少ない人数ですが、これからも地域のために何か1年に1回ぐらいでも良いことをしようかと考えています。会員の24社には当クラブの東京海上日動、青森銀行、三菱製紙、明治安田生命、キンビール、ローソンなどが名を連ねています。今後ともロータリーと一緒にあって、共に地域に貢献していきたいと思しますので、今後ともよろしくお願ひします。

#### 渡辺 孝さん



祝祭日、休日にわたしがいったい何をしているかをお話します。休日はロータリーのいろいろな活動がありましても出れない言い訳をさせて

いただきます。

休日は先週も先々週も含めて、日曜日が100日あれば99日はカミさんと一緒に温泉に行きます。日帰り温泉に行きます。92歳の母親をおいて一泊、二泊というわけにもいかないので、必ず日帰りになります。北の方はむつ市の温泉に行きます。カミさんはお風呂に入ると1時間半出てきません。わたしは通常20分、頑張っても30分なので、1時間時間が余ります。この時間をどう使うかが常に問題です。ほとんどの場合、近くに何もなければ待合所でボウツとして待つ、携帯電話をいじる、あるいは寝ていることになります。そうでない場合はちょっと外に出て、お店に行ったりします。

むつの矢立温泉は、温泉はやたらと熱い温泉ですが、隣はゴルフ練習場です。こういうところに行くと、先にゴルフをします。カミさんをお風呂に入れて、わたしは隣でゴルフの練習をして、適当にやったあとお風呂に入って出てきても、まだカミさんは出てこない、という状態です。こういうふうなものの考え方で進んでいます。

むつ市ではむつグランドホテルにもお風呂がありますが、ここはただ待っているだけです。横浜町も銭湯の小さい感じでただ待っているだけ。ろっかぼっかでは、ここから10分くらいのところにゴルフの練習場がありますので、ろっかぼっかでカミさんを下して、10分走って、30～40分ゴルフの練習をしてお風呂に戻って来て入って、さらにカミさんが出てくるのを待つことになります。

近いところでは七戸と小川原湖の周辺にいきます。すぎのご温泉には一番行きますが、最近ボイラーが壊れ、ちょっと足が遠のいています。天間林温泉、七戸の坂田温泉はお湯がいい。カミさんがお湯が濁っていることと、匂いが強い、これが大好きです。わたしはそうではなく、匂いもしなければ透明な風呂がいいのですが、その辺の趣味の違いが出てきます。

南は花巻まで行きます。西はこの間は弘前、秋田では大館、鹿角。鹿角も10分くらいのと

ころにゴルフの練習場がありますので、ここで練習してお風呂に入ります。

このようなことをやっていますので、日曜日はなかなかロータリーの活動には出られません、という言い訳でした。

#### 道尻誠助さん



20年前の例会で、今テーブルにあって、ないものはわかりますか？20年前はお手拭きがありました。料理のメニュー、コショウもありました。20年間常にあるのは箸の袋の中にある爪楊枝です。きょうは爪楊枝の話をしします。

爪楊枝は、“柳”は枝が垂れる、“楊”は猫柳のように枝が上がるほうで、現在では楊を使います。日本の場合柳が原料ではなく最近では白樺ばかりです。柳は痛みを取るために昔から使っています。ネアンデルタール人の

10万年前の歯の化石に削った後があり、それ以来、ギリシャの辺りにはヒポクラテスが実際に痛み止めや通風の治療に使いました。日本では頭痛や歯痛に使って、それがずっと伝統的に。

京都の三十三間堂は頭痛もちの後白河法皇が頭痛を治したいために建てたお寺です。あそこは頭痛寺平癒山という呼び方もされています。柳の木の皮に痛みを止めたり、炎症を鎮める成分があるのでそれを作ろう、と実際に作ったのが1897年にアスピリン。現在も痛みと少量で心筋梗塞や狭心症、脳梗塞の血液サラサラのお薬として使われています。

ですから柳の下にはどじょうもいるし、薬もいる。皆さんもアスピリンを飲むときは、ロータリーのスピーチでということをお願い出していただけだと思います。

出席報告						出席委員会		
第3304回例会（2月28日）			第3302回例会（2月7日）					
出席率		49.2%	出席率		58.7%	修正出席率	65.1%	
総会員数		64名	出席数		29名	総会員数		
			総会員数		64名	メイクアップした人数		
出席義務会員		63名	出席免除会員		1名	欠席数		
			欠席数		32名	出席義務会員		
			出席義務会員		63名	出席免除会員		
			出席免除会員		1名	欠席数		
			欠席数		22名			